

文書館の事業、運営等について

御意見等	事務局（文書館）の回答	
文書館の収集史料の中でまだ目録を刊行できない文書が多い。県内には古文書が読める老人が多い。職員が指導しながら、文書の読める人たちにボランティアで目録整理を手伝ってもらうのはどうか。	古文書の目録作成や埃払い、ラベル貼付等のボランティアについては、来年度から受入れができるように課題を整理のうえ、募集要項を作成していきたい。	落合会長
少ない予算で頑張っていたいただき、感謝している。地味な仕事だが、大切なことなのでよろしく願いたい。	予算の執行に当たっては、引き続き工夫しながら、より充実した文書館にしていきたい。	長委員
国の公文書管理はひどいものである。国がらみの公文書は極力保管すべきである。特に新型コロナ対策。県の公文書も同様。	新型コロナウイルス感染症関係の文書は歴史公文書に当たると考えられる。国から收受した文書等も含め移管を受け、保存したい。	小林委員
文書館のインターネット古文書講座は大変参考になる。外出自粛の中、古文書の活用を図るうえで取り入れていきたい。	インターネット古文書講座は人気があり、アクセス数も多いことから、今後とも充実させていきたい。	岡屋委員
講座、展示に遠隔の方式を取り入れることが必要である。また、運営についても遠隔処理が可能なことは遠隔で行う。	今年度インターネット展示や古文書講座等の動画配信に取り組んでいる。今後さらに事業や運営に遠隔方式を取り入れることを検討していきたい。	佐藤 (公俊) 委員
『ぐんまの古文書 続編』は古文書に興味・関心が持てるように編集されているが、できれば古文書の写真は別ページで大きく掲載し、学習会でも活用できるよう工夫してあると良かったと考える。	『ぐんまの古文書 続編』は写真、釈文、読み下し文、用語、解説を見開き2ページにまとめるという考え方で編集している。御意見については、今後の刊行物の作成に活かしていきたい。	宮崎 副会長
収蔵史料の公開方法や方針を模索しつつ、具体的に発信する活動、その時々での社会の動きに対応し、タイムリーな企画が実施されている。Facebookでも読み手を獲得しつつある様子がかがえる。	当館の認知度を高めるためには、よりタイムリーな企画や興味を持ってもらえるような情報発信が重要であると考えている。今後とも引き続き情報発信等を充実させていきたい。	新井委員
国立公文書館のアーキビスト認証が始まったが、公文書等管理条例施行を控えて専門職員の拡充が必要である。	専門職員の確保については、県教育委員会と相談しながら、計画的に職員が確保できるように対応していきたい。	佐藤 (孝之) 委員
毎年多くの古文書を寄贈・寄託で受入れているが、どのように受入れについての案内をしたり、依頼を受けているのか。	県史追跡調査のアンケートで、寄贈・寄託の要望を確認のうえ、要望があれば受け入れている。それ以外は特に案内はしていないが、個別の相談に応じて、受け入れている。	田中委員
県史調査時に把握された古文書を追跡する以外の調査はどのようにしているのか。	当館で委嘱している文書調査員18名が各地区の調査を実施するほか、古文書の所有者や市町村から保存管理について相談を受けた場合等に調査を実施している。	田中委員